

## 米作り支援へ、準備が進む。 14回友好訪問団現地訪問へのご参加をお願いします。

### ◆米作り支援へ準備進む

前号で、報告しました米作り支援について、準備が進んでいます。ここ数年、検討を続け懸案であった「キューバ米作り支援プロジェクト」に着手することになりました。昨年11月、菊田さんが対象地であり日系キューバ人が多く住む「青年の島」を調査。(詳細は頒布中の『2010年度版 経済封鎖下を生きるカリブの社会主義XII』参照下さい。頒布価800円です)。一部のインフラ整備支援を行うことにより、自立で米作りが復活する可能性を見聞してきました。

ちなみに、キューバは米を主食としていますが、植民地時代のサトウキビ栽培プランテーション経済により米輸入国としてありました。自立をめざして自給率アップを図ってきたものの、1990年代の『特別期』に極度の生産減に追い込まれ、今なおその復元にいたっていません。困窮の中での尊厳も、主食の米の充足なくしてありません。

稲作耕地の復元のための「ポンプ支援」を準備し、去る6月搬入予定でしたが、幾つかの支障が生じ、持ち越しとなりました。菊田さんは再び(6月)現地を訪問しましたので、進捗状況を報告してもらいました。

### レポート

菊田 仁

2010年6月12日～20日でキューバを訪問した。目的は、この間の訪問で米作りの支援を依頼されたポンプ等の返答と、今後どんな支援ができるかを探るための再度の訪問であった。

#### 1、ディーゼルポンプはあるか

要望のあったディーゼルポンプをキューバ在住の是永氏に購入してもらいたいと3月に依頼し、6月に活用してもらおうつもりだった。しかし、キューバでは購入できないと返事があり、どういうことか真相を探るための訪問となった。

残念ながら、是永氏とは直接会えなかったが、ハバナ空港で迎えてくれたノエル氏(前回の訪問で通訳をしてくれた人)とのやりとりでは、ハバナにディーゼルポンプがないとのことで、ハバナにない場合、キューバのどこにも無いだろうとのことであった。では、「輸入の形はとれないか」との問いに、「個人では輸入はむりであろう。企業では可能」との返事であった。

とすると輸入する方法をどうするか、検討を要することとなった。

#### 2、青年の島での稲作の取り組みの実態は

6月14日の午前、シエルロンドを訪問し、ハンザワさんにあつたら、軍隊が整地し、50Haの稲を植え、1月に播種し、丁度出穂しているところであった。

ハンザワさんも自分で耕作する土地を整地してもらい、4Ha 4月下旬に播種し、水は軍隊が整地した土地の用水路から水を引いて、栽培している。ただし、今年は雨季の入りが遅く、訪問した2～3日前からようやく雨が降り始めたようで、また、耕地が高く、用水路が低いため、耕地の端まで水を張ることができず、稲は生育不良となっていた。

また、話を聞くと、肥料(尿素)や殺菌剤や殺虫剤を配布(有料)されるようになったとのこと、キューバ政府が本格的に稲の作付けを開始したことを示している。以上



上：生育不良の稲作の様相



下：青年の島大学農学部の方々と

第14回友好訪問団の参加締めきりが迫っております。仮予約でも良いですので、ご連絡下さい。

クバポン協賛「Vamos a Cuba パート2」を9名の参加者によって、今夏7月23日から8月3日までの日程で実施しました。一昨年（08年）に「パート1」でキューバへ行った15名が、実行委員会を立ち上げ、昨年の坂戸市文化会館での「キューバ・フェスティバル」を成功に導いた原動力になりました。その内のメンバー6名がリピーターとなり、今回はキューバの東部と西部、ハバナ旧市街と場所を限定し（前回バスで訪問した中間部は空路で省略）、距離的にはより長い旅となりました。

見どころは、サンティアゴ・デ・クーバのカーニバル見学（キューバ革命の始まりとなったモンカダ兵営襲撃の7月26日が最終日で最高の盛り上がりを見せる）とキューバ東端のバラコアのコロンブス上陸地点とアレハンドロ国立公園（世界自然遺産）、そして西部にあるビニャレス渓谷（世界文化遺産）などでした。

サンティアゴ・デ・クーバでは湾からカリブ海へ出て、モロ要塞を眺めたサンセットクルージングも良かったのですが、時間的な関係で日没前に切り上げ、夜のカーニバルへ出かけました。素朴な中にも住民の熱気や興奮が溢れ、踊りや音楽に引き込まれてしまいました。最後まで見ていたかったというのが全員の感想でした。次の日は、早朝よりバラコアへバスで長時間の移動となり、体調を崩す参加者が出てきました。バラコアも観光地ではありますが、遠いこともあり、他の都市よりも素朴で親しみをおぼえる街でした。ここは、一昨年のハリケーンの被害が大きかったところで、未だ復旧していない建物もありました。バラコアではキューバの病院を訪問するのではなく、実際に治療を受けるというハプニングがあり、旅行者にもかかわらず無料というシステムの恩恵にあずかり、貴重な経験をさせてもらった今では思っています。



観光とは別に、キューバの子供たちとの交流会を持つことができました。クバポンハナバ支部の是永さんを通して、地域の子供たち6才から14才までの女子4人と男子3人に集まってもらいました。年齢や人数などは当日まで分からなかったもので、こちらでは、パネルシアターと折り紙を用意して行きました。難しいと思われた鶴の折り紙にも興味を持って熱心に取り組んでいました。子供たちはシャイな感じでしたが、みな私たちの質問にもきちんと答えてくれ、ポジティブで前向きな姿勢がとても印象的でした。



上：子どもたちとの交流

また、6月の「キューバの集い」（キューバ・フェスティバル実行委員会主催、クバポン後援）で多くの方々に支援物資の提供を呼びかけ、段ボール箱2つを持参することができました。これらの物資と現金カンパ（8万円＋100CUC）は、運良くアレイダ・ゲバラさんの自宅で本人に直接手渡すことができました。アレイダさんからは、お礼の言葉とともに9月の新学期に学校において寄贈の報告会をする旨の話がありました。また、今年の10月には来日の予定があり、支援してくれた方々と会えることを楽しみにしていること、11月のクバポン企画の友好訪問時にはサンタクララの障害児学校併設の病院を訪問視察してほしいことなど、短い時間でしたが、和やかな雰囲気の中で話をすることができました。（支援金については、限られた予算の中でカーテンなどの設備・備品の修理や不足している教材の購入のために、必要に応じて活用できるので大変有難いとのことでした。）

下：アレイダさんとの出会い



## アメリカに不法に収監されている5人のキューバ人の釈放を訴える記者会見

が、9月10日キューバ大使館で行われました。この問題に対するキューバ大使館での記者会見は昨年に続いて2回目で、当日は、報道関係者とキューバとの友好団体から20名を超える参加者がありました。



会見は、まず3つのドキュメンタリービデオ（①ヘラルド・エルナンデス氏へのインタビュー、②米国支援団体の会見、③米国俳優のダニー・グローバー氏のメッセージ）の視聴から始まりました。そして、バジェステル臨時大使から、5人がいかに不当不法な判決によって12年間もの長期にわた

って拘留されているかを他の事例と比較しながら話がありました。この会見の趣旨は、次のことにあると思いました。昨年、日本からのアミスカキュリエの意見書提出などや世界各国での再審を訴える大きな取り組みがあったにもかかわらず、6月にアメリカの最高裁は再審を却下しました。その後、この問題について日本でも初めてキューバ大使館は記者会見を持ち、日本を含めて世界各国にさらなる不当性を訴えました。そして、10月と12月にマイアミの連邦裁判所において3人の減刑の再判決ができましたが、これはごまかしにしか過ぎません。しかしながら、即時釈放を支持する国際的な運動が、この再判決に大きな影響を与えたことも否定できません。判決が政治的なものである以上、アメリカ政府に対して不当な拘留を止めさせるように求めるとともに、即時釈放されるよう行動を強化し、連帯の輪を広げることにあるでしょう。

その後、友好団体としてクバポンをはじめ5つの団体と在日キューバ人協会からのアピールがありました。それから、報道各社からの質疑応答があり、最後に、キューバ人協会のアレキサンダーが5人の英雄の一人が書いた詞に彼が作曲した曲と「アスタ・シエンプレ・コマンダンテ」を歌い、予定時刻を1時間オーバーして5時に会見は終了しました。

メッセージ

2010年9月10日、東京

アメリカ合衆国のすべてのメディアの皆様へ

2009年、我々は合衆国最高裁が、確固とした論拠が提示されたにもかかわらず、「5人」の裁判の再審却下を決定したことを知りました。

我々は、合衆国政府が5人のキューバ人の裁判の進行中に、平行してマイアミの著名な複数の記者に5人の英雄への反対プロパガンダに加わらせさせるために、全く法的な説明のつかない形の金を渡していたことを明らかにする証拠が存在することを知り驚きました。

5人解放100人委員会に参加する連帯グループである我々CUBAPONは、この5人の反テロ活動家に対する不当な恣意性を明かにし、アメリカ合衆国政府の良識に訴え、米国の司法制度に対する疑いを起こさせるこのような行為を止めるよう求めます。

我々は、最後の法的手段として米国の司法制度の中でこの案件が解決されることを願い

マイアミ連邦裁判所にすでに提出されたヘラルド・エルナンデスの人身保護令状を支持します。

日本において5人の解放の闘いはこれからも弱まることはありません。我々の活動を強化し、フェルナンド・ゴンサレス、レネ・ゴンサレス、ヘラルド・エルナンデス、アントニオ・ゲレロ、ラモン・ラバニノが祖国への帰還を果たすまでキューバ国民を支持していきます。

日本キューバ連帯委員会CUBAPON

### ◆ベネズエラ・ボリバル共和国国造り視察団催行 10月3日から

今やキューバの盟友として、また、ボリバル代替案計画によって、新自由主義に苦しめられてきた各国の連帯の輪をつくる要として、新しい国づくりを進めてるベネズエラ・ボリバル共和国。今年でベネズエラは独立200年を迎えています。また、議会制で社会主義憲法を2009年に制定した国です。幾多の困難を乗り越え、一つの範を示しつつあるベネズエラ・ボリバル共和国を見聞し、関係機関との意見交換を行います。

◆キューバ連帯イベントのお知らせと参加要綱

「今すぐ自由を」

「第6回5人の英雄の解放を求める反テロ国際会議」

2010年11月17日から21日、於オルギン州

キューバ諸国民友好協会（ICAP）はすべてのキューバの友人達に「第6回5人の英雄の解放を求める反テロ国際会議」への参加を呼びかけます。

同会議は2010年11月17日から21日までオルギン州にて開催されます。それは正義を愛するすべての人々にとって、5人の解放を求める闘いに勇気と努力を結集させる新たな機会となることでしょう。

宿泊先はオルギン市の中心部にある快適なホテル「ペルニク」となります。参加者の皆様には宿泊、空港までの送迎、会議の諸行事への移動、シングル朝食つきまたはツイン朝食つきのパックが用意されています。

さらに、11月22日から24日まで、名所旧跡訪問などのオプションプログラムも用意されています。

ICAP主催

国際ブリガダー「メディアテロとの闘い」プログラム  
2010年11月15日～28日

		11月22日（月）	
		08:00	ハバナへ向って移動 ビジャ・クララの ICAP 施設に宿泊
		11月23日（火）	
		08:00	ハバナへ移動
		13:00	CIJAM 到着、昼食、休憩
		16:00	ICAP 総裁によるブリガダープログラムの公式開会式
		夜	ICAP 作成品の展示開始
		11月24日（水）	
		10:00	キューバ情報通信省とジャーナリスト連盟の講演（於 CIJAM）
		12:30	昼食
		14:30	UCI 情報科学大学訪問
		夜	CIJAM にて自由時間
		11月25日（木）	
		08:30	ハバナ市へ出発
		10:00	キューバと米国の講演（於友好の家）
		12:30	昼食（於友好の家）
		14:30	専門ジャーナリストによるキューバ経済の現状報告
		夜	ハバナ市にて自由時間
		11月26日（金）	
		10:00	キューバの市民社会について会談（CIJAM）
		12:30	昼食
		15:00	報道関係者との交流
		17:30	ウェブサイト <a href="http://www.siempreconcuba.cu">www.siempreconcuba.cu</a> 紹介とレセプション
		夜	ハバナ市内にて自由時間
		11月27日（土）	
		午前	キューバの報道機関へ訪問、業務体験（於 Cubadebate からラジオ Habana Cuba、あるいは両方）
		12:30	昼食
		午後	キューバ映画芸術産業省訪問
		夜	ハバナ市にて自由時間
			オプション：文化パフォーマンス（オペラかバレエ）
		11月28日（日）	
			代表団それぞれ帰国
11月15日（月）	代表団到着 CIJAM へ宿泊		
11月16日（火）	06:30 オルギン州へ向って移動 ビジャ・クララの ICAP 施設に宿泊		
11月17日（水）	07:00 引き続きオルギン州向って移動 13:30 宿泊施設に到着・昼食 15:00 歓迎セレモニー、各国代表者の任命とオリエンテーション（於 エクスポ・オルギン）		
11月18日（木）	09:30 第6回会議開会 10:00 「キューバの5人」についての最新情報 「キューバの5人」の関係者との懇談（於 エクスポ・オルギン） 12:30 昼食（於 エクスポ・オルギン） 14:30 地域別に各国代表の交流		
11月19日（金）	08:00 都市有機農業と植林のボランティア作業 12:30 昼食（於エクスポ・オルギン） 02:30 専門分野に分かれて懇談 16:30 国内外の5人解放委員会、連帯組織と5人委員会の参加代表者会議		
11月20日（土）	08:00 連帯の行進 08:30 チェ・ゲバラ記念碑にて集会 10:00 第6回全体会議 12:30 昼食 14:30 最終声明と活動計画の承認 15:30 閉会 20:30 CDR（革命防衛委員会）との会合		
11月21日（日）	09:00 市民と5人の解放を求める運動について意見交換（於オリギン州の各市） 09:30 対テロ公聴会（於ボカ・デ・サマ） 20:00 ICAP50周年を祝う文化行事		

同イベントに参加を希望される方は、詳細CUBAPONまで、その旨お知らせ下さい。